

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0370300311		
法人名	医療法人勝久会		
事業所名	グループホーム綾姫		
所在地	〒022-0211大船渡市三陸中綾里字清水67 (電話)0192-42-3888		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成20年1月24日

【情報提供票より】(19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建て	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	220 円	昼食	280 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	83.2 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立大船渡病院・綾里診療所・地の森クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「綾姫」は、大船渡市の北東部、陸中海岸国立公園に面し、三陸鉄道南リアス線「綾里駅」から5分のところに位置、ホームの2階から望む周辺は、瓦葺の農漁村集落で、田圃と畑、近くには小学校もあり、山すそに広がる竹林は温暖地ならではの風景である。1階は、法人の違う通所介護事業所があり、2階が「綾姫」である。利用者の外出支援には通所介護事業所との相互協力があり、馴染みの場所へのドライブなども計画通りに実施されている。ホームにはエレベーターの設置もあり、柔軟性と応用力のあるサービス提供を展開している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で「感染症予防対策」「食中毒」に関するホームの学習会・マニュアル整備の改善課題は、調理場の消毒実施、学習会の開催、マニュアルを整備するなど改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目に求められている理解や気付きは、今後のサービス支援への改善指針として取り組むこととしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>推進会議が回を重ねる毎に、コミュニケーションも高まり、職員の励みや充実感となっている。市の関連機関や包括センターからの情報提供や包括が主催するケア会議、事例検討会など、ネットワークが確立されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>一人ひとりの健康状態や金銭管理については、定期的に報告をしている。家族会の結成については目下検討中だが、家族意見は、面談の際やお便り通信で収集するように努めている。ご意見箱も設置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、総会や班活動にも参加しているし、近隣からの野菜などを頂くことも多い。また中学校の祖父母参観日には、利用者や馴染み祖父母との交流もなされ、ホームの実態や利用者理解、協力への窓口となっている。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	見直しは行っていないが、今後検討することとしている。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人ひとりのその人らしさを大切に生活を送る、を方針に、ミーティングや会議、行事毎に確認し合いながら、地域と共に利用者を支える目標となるよう共通の認識に立っている。	○	地域密着型サービスの役割を考えると、地域に根ざした包括的、継続的なケアが求められていることから「綾姫」独自の新たな発想に立った理念の見直しが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや会議、また諸行事にも、目標を設定しながら取り組んでいる。中学校の祖父母参観日に参加した際には、利用者と馴染みの方々との交流の場が展開された。職員は、地域への溶け込みの一場面として捉え、更なる地域交流へ向けた実践を目指すこととしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入、班活動の早朝草刈にも参加している。茶会では、民宿からの仕出し弁当を、参加者の方々と利用者と一緒にするなど、地域と一体的な活動の日を設けている。幼稚園児とのゲーム、住民、家族も参加する通所介護事業所との合同ピクニック、また近くの子供が遊びに来訪するなど、地域に溶けこむ取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年同様に職員が分担して取り組み、2回にわたる話し合いを行った。項目に対する難解の部分もあったが、評価項目が求めている課題となる内容や気づきは、今後のサービス支援への改善指針として取り組むこととしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	10月24日(水)には、サービス評価への取り組みについても話し合っている。会議における要望や意見交流は、日々の対応や支援への理解や見直しの機会となり、回を重ねる毎にコミュニケーションも高まり、職員の励みや充実感にもつながっている。今回も、ホームの近くにあるゴミの集積場所が問題になり、即刻改善された経緯の記録とその痕跡を拝見することができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の関係機関や包括センターからの電話や訪問などによる情報提供などもあり、包括が主催するケア会議、事例検討会など、協力のネットワークが確立されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	一人ひとりの健康状態や金銭管理、使途の報告は、レシートと共に毎月のお便りと同封し報告してされているが、遠方に住んでいる家族からの情報や来所は少なく、電話で報告することなどで対応している。	○	家族会の結成も企画はしているが、利用者家族の現状からは難しく、当分は通信やお便りの回数や記載内容等を検討しながら対応することとしている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見直したケアプランに家族の意見を求めてもと意向や要望は聞かれない。そこで面談の際には、意図的にさりげない家族の意見や要求を引き出すようにしながらケアプランに活かす試みをしている。ホームの玄関には「ご意見箱」やメモ用紙も置かれている。	○	親族や馴染みの方々のさりげない会話や思いつきの意見、発想が運営の見直しや課題解決につながったという。今後更に、利用者、家族以外の幅広いコミュニケーションの機会を活かし、対応や介護、運営を見つめ直す契機にすることが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	産休による臨時の職員さんを雇ったことがあるが、休職前に臨時職員さんとの顔見せや利用者との接点を計画的に行い、利用者は不安や不満を覗かせることもなく、スムーズな支援に入ることが出来たとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内及び外部研修には、可能な限り参加し、資格取得については特段の配慮を法人へ願っている。10月からは法人による「人事考課」が実施されている。これらは職員の技量アップを図り、質の高いサービスを提供するための一環として、勤務態度・意欲、職務遂行能力、目標管理能力などについて面接等が行われるという。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回の法人内交換研修、他のGHからの研修者を受け入れ、全国・県GH協会入会、定例会、研修等に参加している。特に地域密着型サービスが求めている、地域に根ざした包括的、継続的なケア研修を重視して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全職員が入所者の居宅訪問をし、基本的な情報をベースに、問題行動や言動の背景が多面的に討議分析され、個々に応じた調整やニーズに応えられるサービス提供がなされている。訪問日の利用者は、穏やかな表情を見せながら、自分たちのペースでゆったりと過ごされていた。	○	入所前に、交代で全職員が利用者居宅を訪問するという取り組みからは、職員それぞれで異なる意見も得られ、また個々の職員の利用者理解においても効果的なものであると思われる。独自性の高い取り組みであり、継続が期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	体に染み付いた技で「梅干」づくりや仕出し屋経験の手順などには教わるばかりである。プランターで栽培するミニトマト・ナスなどの植栽作業では、利用者自らの長期的な世話が実り、思いのほか良い収穫を迎えることが出来た。自作野菜を調理する利用者の満足感に満ちた会話が印象的だったと言う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を把握することが困難な場合がある。例えば、大根などの葉っぱを切り捨てるなどの無駄な調理に対する「もったいない」不満等は簡単には納まらない。早晚、センター方式を導入しながら、着眼点の学習に取り組むこととしている。	○	センター方式の様式導入は、職員の理解度や力量を考慮しながら、出来ることから、必要に迫られる項目から、順次導入することが肝要かと思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	些細な出来事への対応でも、カンファレンスを通じてケアプランに載せるなど、職員が共有できるような体制になっている。特に、利用者の栄養面や健康状態については、法人内の栄養師や看護師からの支援や指導を得ながら、利用者一人ひとりの状態やニーズにあったケア内容を検討し、記録に載せながらの介護に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに利用者の個別的な生活・健康状態等のカンファレンスを行い、プラン作成を家族の同意もいただいている。健康面については、カンファレンスに参加している看護ステーション兼務の看護師からアドバイスを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新聞のチラシの特売の品々に関心を示す利用者と近くのスーパーに出かけたり、地元行事の花火大会に参加し、輪踊りに参加するなど、本人の意向を活かした対応をしている。また通院支援には、家族同伴、職員同伴に関わらず、健康状態の報告を医療機関に提出し、ドクターからの配慮事項や対応要領の意見書も頂いてい		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続受診の付き添いを家族にお願いしているが、職員が対応することが多い。家族の同伴には、文書で主治医の連絡をし、兼務看護師が半年に1回、利用者、家族と一緒に主治医との面談をし、指示や指導を仰いでいる。診療所は協力的で万難をはいして対応をいただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に医療連携体制の指針で、重度化及び看取り介護について説明している。職員は法人内ターミナルケア研修会を受け、介護実施内容等について共有しているし、緊急時連絡網も事務室内に掲示している。	○	医療法人としての体制は確立されているが、ホーム独自の研修課題として、身近に直接的な介護の伴う「老衰ターミナル支援」のあり方について取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は、“恥ずかしいことを口に出せない”こと、“お世話になっているだけでも申し訳ないと思ひ言葉に出せないのだ”という思いを職員は共有している。特に排泄誘導時は気持ちの和らぐ楽しい話をしながら、速やかな介助に努めている。排泄パターンの把握にも努めている。家族の秘密を漏らすことはない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やその時の気分により食事時間をずらしたり、買い物、散歩などにも伺いや意向を確かめながら、利用者のニーズに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問当日は昼食を共にしたが、職員と会話を交えながらの楽しい食事の光景を参観できた。食後は一斉に、持ち場持ち場で役割を分担していたが、職員は、本人の出来ること、出来る可能性があることに着目した声かけや対応をしている。食後の口腔ケアもしっかりチェックされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持のこと考え、週2回の入浴を原則にしているが、毎日でも可能であるし、バイタルチェック、着脱動作、洗身、洗髪等、入浴の可否記録もしっかり記録されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫いや人のほころび縫いを楽しみにしている方や、掃除や後片付けに喜びや意欲を示す方もいる。気晴らし支援としての馴染みの海岸や風景へのドライブなども実施されている。職員は、一人ひとりに寄り添い向き合いながらも、日中何もしない方への対応のあり方を課題として取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活暦から、利用者の馴染みの場所や思い出の場所を選定して、ドライブや食事会を実施している。スーパーで買い物をしながら、店員とのコミュニケーションを楽しむに利用する利用者、家族一緒の恒例のお茶会を楽しみにしている利用者等、ニーズに応える支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターも設置されているが、利用者だけの利用はさせていない。2階の入り戸を開けると遊び場のない階段であることから、安全確保上からは施錠は致し方ないものと頷ける。職員は、そのことを念頭に外への誘いや意向を伺うことに気遣いをしながら、施錠による心理的な圧迫感の軽減に努めている。	○	散歩や外出は、心理的な不安や閉塞感の軽減、気分転換や機能訓練、地域交流等多様な相乗効果が予測されることから、利用者の安全に配慮した日常的な散策への支援工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力で経て定期的実施され、周辺の住民の方々からの協力は、ホームの状況や利用者の実態を理解していただく機会ともなっている。非常口には避難用のスロープも設置されている。現在、居室FFストープへの対策、夜間や地震に対するマニュアルづくりに取り組んでいる。	○	利用者の状態を考えると、職員の手薄になる夜間の災害の対応が課題になる。現在、居室に備え付けのFF暖房機、夜間や地震に対するマニュアルづくりに取り組んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	感染症防止に備え、調理の度に調理台・用具等の消毒をされている。食事・水分摂取レベルチェック、加えて食事の様子や状況も記録されている。献立や栄養関連等については、法人の栄養士から定期的な点検や援助、指導をいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングからは、田園の中の集落、山々の裾に広がる竹林、小学校が一望でき、利用者の大半は居室にこもることなく、リビングで趣味に興じたり、話に花を咲かせているという。子供っぽいレイアウトにたくないというリビング、和室には、テレビやキーボードが置かれ、廊下には、行事やドライブでの思い出の記念写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さの居室には、馴染みの筆筒や時計、家族写真、遺影の前に花を手向けているなど、本人の思いやスタイルに合わせた品々を用意している。それぞれの居室からも、のどかな集落が一望でき、常に職員と利用者の話題の広がりとなっている。		